瀬戸内海を一望できるオーシャンビューゴルフコース

淡路カントリー倶楽部　開場60周年

パソナグループ作成の
淡路島西海岸マップより

淡路島観光協会作成のマップ
（2015年）より

瀬戸内海を眼下に小豆島はもとより遥か備前までも一望できる

淡路島の北側に位置する淡路カントリー倶楽部（18H、兵庫県淡路市）が2023年に開場60周年を迎えた。経営の淡路観光開発㈱は1961年設立で1963年に9ホールで開場、翌1964年に18ホール規模に拡張した。東京と神戸に本社を置く川崎重工業㈱のグループ会社でもある。

ゴルフ場が開場後、大鳴門橋（1985年）、明石海峡大橋（1998年）が開通し大阪・神戸から日帰り圏内になるなど環境が変化してきた淡路島。ゴルフ場へは神戸淡路鳴門自動車道の北淡ICからクラブバスも出ており、高速バス（三宮BTから北淡ICまで約50分）を使って行くこともできるアクセスとなっている。

開場60周年を迎えた淡路CCクラブハウス

60周年を迎え実施した施策などを前田勇治取締役支配人にお話を聞いた。

「60周年に当たっては、よりラウンドしやすいゴルフ場を目指すため、案内表示の増設や木々の伐採などを行い、コース内の環境を整えました。一方クラブハウスなど60年経つと様々なところが劣化してきています。コース内のカート道も修繕が必要となってきています。また当ゴルフ場は施設で使う水をポンプで吸い上げるシステムになっていて、その設備も劣化し水漏れが発生することもあります。修繕に関しては長期的な計画を立てて行っていく方針です」と話している。

前田勇治取締役支配人

ビジター集客に関してはコンサルティング会社（㈱エナジー）のもとウェブ集客にも力を入れ始めた。結果、島外からの来場者の割合も半数以上に増加した。導入前までは年間で約2万1000人の来場者だったが23年には2万6832人まで増加。それに伴い一度来場してくれたお客がリピーターになってくれるよう様々な策も実施した。GPSナビ付電磁誘導カートも導入している。

前田支配人は開場当時と比べた淡路島の変化について「淡路島は大鳴門橋や明石海峡大橋が通るまでは船を使わないと渡れませんでした。そうなると日帰りではなく宿泊を伴う観光地となっていました。その当時は民泊も多く営業していましたが橋ができると日帰りで行けるようになり、それまであった民宿はほとんどなくなりました。また船着き場として使っていた港も今ではほとんど稼働していません。その代わり近年は別荘が増えて来ています。

またニュースでも話題となった企業（パソナグループ）の移転の動きもあり、それに関連した建物も増えてきています」と話している。

高速道で北淡ICより2つ北側の淡路IC近くにある県立淡路公園にアニメのテーマパークの「ニジゲンノモリ」がオープンしたのが2017年。それを提案したパソナグループが淡路に本社を移転したのが2020年で、夕日が望める淡路島西海岸にはハローキティスマイルなど観光施設が続々増えて、注目度が上がっているそうだ。

今や淡路島は観光の他、セカンドライフや自然の中で子育てを目指す方が増えて、転出者より転入者が上回っている状況だ。

前田支配人は、近年多くのゴルフ場で課題となっている人手不足について「淡路島は畜産農家など兼業で働いている人も多いため、そうした人材も重要になります。また最近ではタイミーといった短時間でのアルバイトの方にも働いてもらえるようになりました」と話す。

そして「兵庫県には多くのゴルフ場がありますが、その中でオーシャンビューが楽しめるコースとして近畿エリアでは貴重なロケーションであることをPRしていこうと思っています。昼食メニューも海の幸を豊富に取り揃えています」とPRしている。

活気のある地域に変貌しつつある淡路島で、瀬戸内海に面した島ならでは景観とダイナミックなコースをアピールする良い機会になっているに違いない（取材協力・福島睦久氏）。

3番は615Y、P5。グリーンまでの高低差100メートルの豪快な打ち下ろしホール

瀬戸内海の眺望が素晴らしい、池のある谷越えの6番、P3

12番、P5。起伏のあるロングホール。グリーンは砲台で左右にバンカーが待ち受ける

人気昼食メニューの淡路島海鮮ちらし